

雲の上のまち



広報

くすはじ



令和5年度 植原町一般会計当初予算の状況 <P2>

令和5年度施政方針 <P3~11>

植原町の組織機構及び職員配置表 <P12~14>

春の人事異動(教職員) <P15>

令和5年度植原消防団植原町女性消防隊入団式 <P16>

「らんまん」に関する観光地整備について <P24>

写真／姥ヶ滝

2023
<令和5年>
No.778
4月号

- 世帯数／1,722 (2月末)
1,718 (3月末)
- 人口／3,232 (2月末)
3,220 (3月末)
- 出生… 3 ○死亡… 3
- 転入等… 18 ○転出等… 30

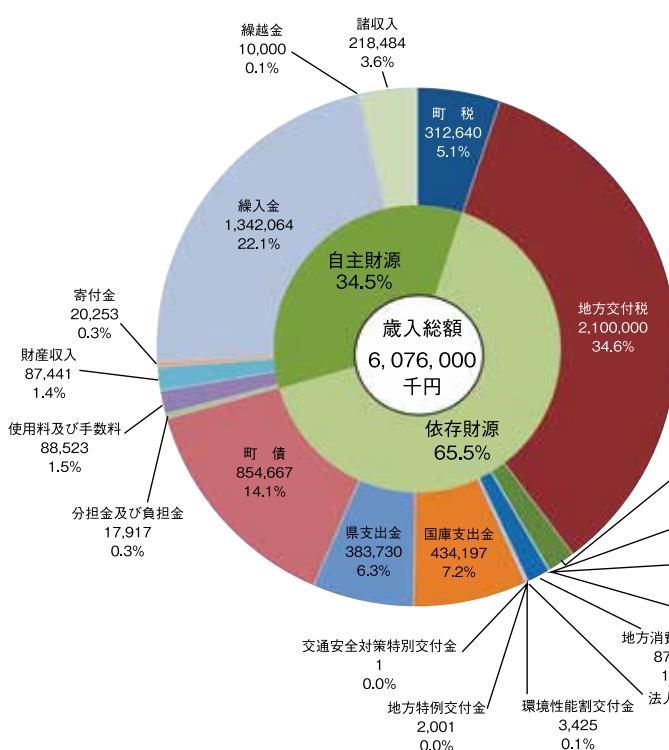
etc...

令和 5 年度 一般会計予算

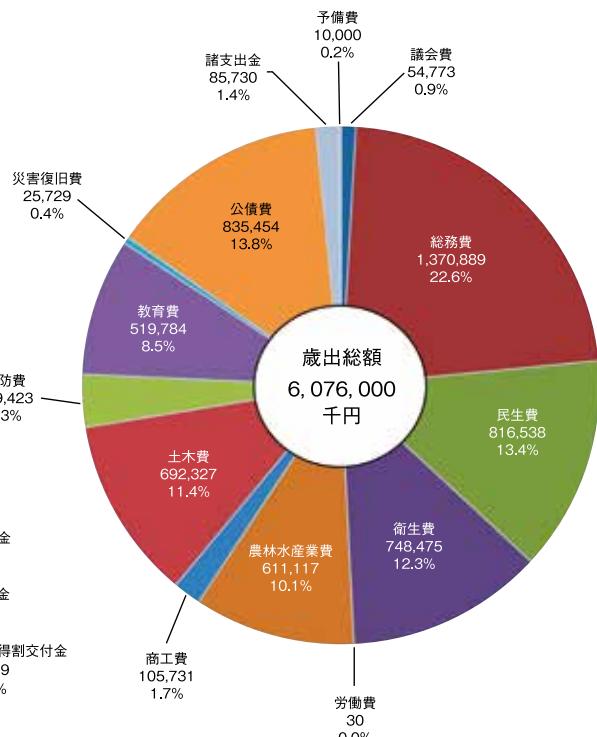
60 億 7,600 万円

梼原町 一般会計当初予算の状況

歳入の状況



歳出の状況



令和 5 年度 一世帯当たり、一人当たりの予算状況 世帯数 1,513 世帯、人口 3,307 人(令和 2 年国勢調査)

会計名	予算額(千円)	一世帯当たり予算額(円)	一人当たり予算額(円)
一般会計	6,076,000	4,015,863	1,837,315
松原診療所特別会計	16,600	10,972	5,020
四万川診療所特別会計	13,300	8,790	4,022
国民健康保険特別会計	750,000	495,704	226,792
後期高齢者医療特別会計	76,000	50,231	22,981
介護保険事業特別会計	578,000	382,022	174,781
簡易水道事業特別会計	131,000	86,583	39,613
農業集落排水事業特別会計	28,600	18,903	8,648
下水道事業特別会計	82,200	54,329	24,856
風ぐるま事業特別会計	163,000	107,733	49,289
病院事業会計	666,796	440,711	201,632
計	8,581,496	5,671,841	2,594,949

令和 5 年度施政方針



第 367 回

例議会が開催され、吉田町長が令和 5 年度に臨み、次のように施政方針を述べました。

人口減少問題に立ち向かう 観光産業への取り組み

このまま人口減少が進めば、梼原高等学校の存続をはじめ教育へ及ぼす影響、また、患者数減少から医師数の減少へとつながるなど医療へ及ぼす影響は必至であり、本町から高校、病院がなくなれば、さらに人口減少に拍車がかかることが容易に予想されます。教育、医療の充実を図ることは当然であります。これらを支えるためにも、この地に根ざした産業の確立

が重要となっています。一発逆転、地域活性化の起爆剤となる事業というのは、簡単にはあり得ません。観光を産業化し、様々な形で様々な分野に連鎖し、長期にわたって継続していくことで「気が付けば、地域が変わっていた」という波及型の観光産業に取り組んでまいります。

そのひとつが太郎川公園の再生であり、観光の拠点として太郎川の再整備を行うことで、交流人口、関係人口の増加につなげていくとともに、雇用が生まれ、周辺では様々な生業が生まれることで人口減少の抑制につなげていきたいと考えています。

このことは、地域からガソリンスタンドが消える危機感から行動を起こした「集落活動センター」の取り組みと考え方と同じであり、将来の姿に、危機感を抱いた

ときから各区が行動を起こしています。

ただしたことと同様の取り組みであります。町も人口減少が教育・医療に及ぼす影響、その他あらゆる分野に及ぼす影響に気が付き、町の将来の危機を感じている今、行動を起こす必要があります。

次に、脱炭素先行地域への取り組みですが、脱炭素社会は、将来世代への責任を果たしていくうえでも、今の私たちが今やらなければならぬ課題であると認識しており、一昨年のこの場で「ゼロカーボンシティ」宣言をさせていただきました。その後 4 月には環境省から「脱炭素先行地域」への選定をいただき、地域のエネルギー政策へ本格的に舵をきりました。このことは役場だけが率先して取り組みを進めていくのではなく、町民の皆様一人ひとりが意識していることだと思つております。

このことは、子々孫々に幸せな暮らしをつなぐための投資であり、今進めていかなければならぬことだと思つておりますし、その財源についても国県の補助金をはじめ金融機関や民間企業とも連携するなかでしっかりと確保していきます。3 月 18 日には、高知大

も起こしていきます。

まず、太郎川公園再生を核とした観光産業についての考え方、先ほど申し上げたとおりであります。

未来の梼原町存続にむけた取り組みのスタート

この観光産業の核に据えるべく太郎川公園再生、脱炭素先行地域への取り組み、さらに地域での伝統文化の継承、情報化やデジタル化、健やかで幸せという意味での「健幸」づくりへの取り組みについて、全力を傾注していきます。

このことは、子々孫々に幸せな暮らしをつなぐための投資であり、今進めていかなければならぬことだと思つておりますし、その財源についても国県の補助金をはじめ金融機関や民間企業とも連携するなかでしっかりと確保していきます。3 月 18 日には、高知大

学と連携した町民向けシンポジウムの姿に、危機感を抱いた

ムも開催され、その前段として梼原高校生を中心としたワークショッピングも開催しました。今後も、こうした学習の機会を多く設けながら、町全体で、町民の皆様とともに取り組むように、木質バイオマス発電所をはじめとする地域エネルギーの広がりに向けた取り組みを実施していきます。

さらに、アメゴ養殖事業のように「食」×（かける）「産業」といった伝統の火を灯し続けるための取り組みや「茅葺き伝一義範親方」と「茅葺屋根」のように将来に伝え繋いでいく価値ある「柄原遺産」を継承していく取り組み、家庭用告知端末の入れ替え事業をはじめ今後の社会情勢の中で、いやがおうでも取り組みを進めなければならず、活用の仕方で町民の生活やこの先の未来が大きく変わってくる情報化やデジタル化に向けた取り組み、歯科診療所の建設等、町民の皆様の健やかな幸せ、「健幸」づくりに対しても積極的に取り組んでいきます。

新型コロナウイルス 感染症への対応

新型コロナウイルス感染症と向き合い、すでに3年以上が経過しております。

町民の皆様、事業所の皆様には、この間、マスクの着用からはじまり不要不急の外出の抑制や営業時間の短縮、さらに燃料等の物価高騰など日常において不自由な暮らしを余儀なくされているなかで、町の施策に、ご理解とご協力をいただいていることに、心から感謝を申し上げます。

先行きの不透明な状況ではありますが、今年5月8日には、感染法上の位置づけを季節性インフルエンザ等と同様の「5類」へ引き下げる事が決定されています。「5類」へ移行しても、新型コロナウイルスの感染力や病原性が変わるものではありませんし、季節性インフルエンザと同様の対応が可能な病気になるには、もうしば

らく時間がかかるのではないかと思っています。今後も国県の状況を見ながら町民の命を守り、町民の生活の支え、そして町内の経済を活性化させるという3点については、状況に応じてしっかりと対応していきます。

一方で、それと同等以上に私が重要だと思っているのが、それぞれのご家庭での対話だと思います。身近な話題について、子どもたちと対話する。「私はこう思っています。身近な話題について、子どもたちもたちの考える力がついてきます。議論ではなく対話なので、子どもたちの考えを否定することなく、「そういう考え方もあります。」と受け止めていくことで、子どもたちの考えを肯定するから子どもたちの考える力がついてきます。議論ではなく対話なので、子どもたちの考えを否定することなく、「そういう考え方もあります。」と受け止めていくと、子どもたちも自分の考えを話すことにもなり、必要な知識を吸収していくことにもつながります。

教育変革 (education x-formation)

2020年の国の教育改革の背景として、21世紀は新たな知識・情報・技術が社会のあらゆる基盤となる「知識基盤社会」を迎えるといわれています。そのなかでは、グローバル化、情報化の面での急速な社会変化に柔軟に対応する力が求められています。

覚えたことを答案用紙に正確に再現できる力より、学んだことを生かして自分で考え方判断し、他者との学びを通じ新たな気づきを得ながら、人生を切り拓き豊かにしていく「生きる（生きる）力」を育てていくことが必要になってきました。

そうした「新しい学力」を育んでいくために、子どもたちが成人を迎えるまでの保幼小中高の教育を一体として捉えている一貫教育支援センターの担う役割がこれまで以上に重要となってきます。

ました。

これは、それぞれのご家庭だけでのことではなく、社会でも、役場

でも同じことであり「教えてもらう」姿勢より「学ぼうとする」姿勢につながるものだとも思っています。

学校教育で言えば「教える」から子どもたちが主役になつて「主体的・対話的に深く学ぶ」に転換していきます。そのために、教室だけでなく町内の様々な場所や様々な人を活用しながら幅広く活動できるようにしていきます。

こうした学びは郷土愛の醸成にもつながるものと思っています。将来を担う児童生徒が愛着や愛情をもつて椿原町を思い、将来にわたり椿原町で活躍してもらうには知識だけでなく、心を動かすことが重要であり、自分たちの住んでいる椿原町の魅力に誇りをもつためにも先ほどの人口減少のなかでの観光産業が必要であると考えています。教育×観光といったコラボレーションにもなつてくるかと思いますが、「×（かける）」とすることで掛け算的にも相乗効果を生みだせるよう、令和5年度に

おいても「産業（観光）」と「教育」には特に力を注いでまいりたいと考えています。

さらに他の地域課題についても掛け合わせることで、より大きな答え（効果）となつて解決につながるものと考えています。

令和5年度の主要施策

【椿原ならではの保健・医療・福祉】 介護が充実した社会 健康

○総合的な取り組み

住み慣れた地域ですべての町民が、笑顔で暮らすことができるよう、健康増進から疾病の予防、治療、リハビリテーション、介護サービスなど、保健から医療さらに福祉にいたるサービスを切れ目なく提供できる仕組みとともに、社会福祉協議会をはじめとする福祉事業体や地域住民と椿原病院、保健福祉課と文字どおり保健医療福祉介護が一体となつた地域共生社会の実現に向け重層的、包括的な支援体制の構築を目指しています。

一方では、介護人材をはじめとするマンパワー不足といった課題も顕在化しています。人材の育成確保はもとより、住民同士の支え合いの取り組みをさらに発展させており、皆様には、ご迷惑をおかけしていることと思いますが、従前のように医科歯科連携が図りやすい環境と併せて、町民の皆様が必要な方に行き届くよう、町民の皆様のご理解とご協力をいただきます。

○地域医療体制の充実

【椿原ならではの保健・医療・福祉】 人口減少をはじめとする社会の変化のなかで、本町の地域医療を

巡る環境は、患者数の減少などにより厳しい経営状況が続いている。経営改善の特効薬があるわけではありませんので、病院基本方針である「良質なプライマリケアをを目指す」「1・5次救急医療の継続」を確実に実施し、信頼される病院となるよう、病院職員一丸となって取り組み、経営の健全化を目指してまいります。

また、椿原歯科診療所については、現在、仮歯科診療所で診療しております、皆様には、ご迷惑をおかけしていることと思いますが、従前のように医科歯科連携が図りやすいう環境と併せて、町民の皆様が利用しやすい環境を整えていくため、令和5年度には、旧歯科診療所の跡地に新たな施設を建設し、令和6年度の開所を目指していき

○健康づくり

長年にわたる健康文化の里づくり推進員の皆様のご尽力のおかげで、健診は受けるものとして住民の間に広く定着し、病気の早期発見・早期治療に繋がってきていました。しかしながら、医療費は依然として上昇傾向にあります。

医療費の抑制を図るとともに健康で暮らし続けるには、生活習慣の改善を行い、重症化予防に取り組む必要があります。そうしたことをからヘルスアップ事業を推進し、運動と食事の習慣を改善することに取り組むとともに、子どもたちから栄養バランスの取れた食生活や健康な身体づくりを意識してもらうことで、生涯現役を目指した健康づくりや医療費の抑制につなげていきます。

○道路網（命の道）の整備促進

私たちがこの町で安心して安全に暮らすために、道路は極めて重要な社会基盤の一つです。これま

で、この町と町民の安全、安心な暮らしを守るために、「命の道」の整備に全力をあげて取り組んできました。

昨年 4 月には町道佐渡鷹取線が供用開始となり、松原方面へのアクセスが飛躍的に向上したところです。

今後におきましても、鷹取から中平区間の早期完成に向けて積極的に取り組むとともに、主要地方道城川柄原線及び中平柄原線、並びに県道上郷柄原線におきましては、現在、工区設定いたいいる区間の整備促進を図りながら、今後、未着手区間につきましても、新たに工区設定をいただき、切れ目のない整備効果が図られるよう、積極的な要望活動に努めます。さらに、生活道である町道等につきましても、引き続き新規路線開設や改良等、継続的な整備を進めています。

○生活交通手段の確保

道路網整備と並行して取り組み



コミュニティバス

を進めてきた、生活交通手段の確保につきましては、高齢者の方などを中心に地域の声を聴き、町内路線バスの運行経路の見直しやコ

ミュニティバスの運行等について検討し、昨年 10 月から本格運行を開始しました。

令和 5 年度におきましては、バス停標柱の整備を行い、わかりやすく利用しやすい環境整備を行っています。また、今後におきましても地域の声を聴き、気軽に利用できる生活交通を目指していきます。

そうした水の質の向上として、濁りの解消や取水量の確保に向け、具体的箇所の把握に努めるとともに、事業の仕組みづくりに取り組みつつ、計画的な整備を行い、命の水の質の向上に努めています。

○命の水の質の向上

命の水の確保については、町内で中心に地域の声を聴き、町内路線バスの運行経路の見直しやコ

ミュニティバスの運行等について検討し、昨年 10 月から本格運行を開始しました。

【自信あふれる柄原人を育てる 教育の確立した社会】 ○教育

○自信あふれる柄原人を育てる 教育の充実

教育委員会内に設置しています「一貫教育支援センター」は、こども園・小中学校・高校を繋ぐ役割を担い、校種を超えた連携を図っています。

しかし、教育現場が抱える課題は年々多様化複雑化していきます。こうした課題は、地域や背景

によつても異なるため、一貫教育支援センターを法に基づく教育機関に位置付け、他市町村の教育研究所と情報共有を図りながら、特別支援教育や不登校児対応への支援を含めた本町における教育課題を調査分析し解決に向け取り組み、さらなる教育活動の充実を図つていきます。

○ 植原高校の魅力化

植原高校の魅力として、豊かな地域資源を活用した特色あるカリキュラムによる体験活動や植原町内の様々な分野で活躍している人との交流対話を通して得られる多様な生き方や価値観に触ることにより地域社会で生きる力を習得することがあげられます。

さらに、人口問題をはじめ国内でも先行して検討すべき課題が多くある本町だからこそ、課題解決に向けて考え方を身につける活動にもつながっています。また、国際人育成として海外留学の機会も設けており、植原から

世界へ幅広く挑戦することのできる環境も魅力のひとつであります。植原で貴重な 3 年間を過ごす子どもたちの意欲を応援することで、さらなる植原高校の魅力化に取り組んでいきます。

○ 生涯スポーツの推進

スポーツは体力向上だけでなく、交流から生まれる仲間づくりや生きがいづくり、活力ある生活の実現につながるものです。町民の皆さんのが日常的にスポー

ル、交流から生まれる仲間づくりや生きがいづくり、活力ある生活の実現につながるものです。町民の皆さんのが日常的にスポー



改修後の大越増進センター



パラスポーツ フライングディスク

ツに親しめる施設環境の整備として、大越健康増進センターを全面改修し、パラスポートであるボッチャのラインコートも整備しました。

年齢・性別や障害の有無に関わらず、それぞれの目的に応じてスポーツを楽しむ機会の創出と、雲

の上のスポーツクラブをはじめとする各種団体の活動を支援し、地域スポーツの推進に努めています。

○ 取り組み推進

本町では、長年にわたり様々なプロジェクトを進めながら「再生可能エネルギーの自給率向上」や「CO₂の排出削減」並びに「森林のCO₂吸収力向上」に向け取り組んできました。しかし、取り組みをはじめてから年数が経ち各種設備の老朽化やFIT期限の終了など設備の維持や省エネルギーへの取り組みが徐々に難しくなり、今後の取り組みについて検討を重ねてきました。

検討結果をもとに脱炭素先行地域として選定を受け、令和 4 年度から具体事業の計画策定業務等を取り組んでおり、今後、木質バイオマス発電所詳細設計や地域マイクログリッド構築のための各種設計、工事に順次取り組んでいくことをとっています。

町民の皆様や議会議員の皆様に

【次世代へより良い環境を引継ぐ社会】

環境

も、折にふれ情報共有を行いながら脱炭素社会構築の実現に向け、取り組んでいきます。

○風力発電リースの推進

四国カルスト風車については、令和 4 年度から建て替えに取り組んでおり、令和 5 年度上半期の運転開始に向け工事を進めています。この風車による発電電力は FIT 売電を行うこととしています。が、今後設立を予定している地域エネルギー公社へ供給することに

よりトレーサビリティの付いた電力を地域に供給することが可能となります。

町内エネルギーの地産地消の取り組みを推進するうえにおいても非常に重要なものであることから、可能な限り早期の運転開始とその後の安定的な稼働に努めています。

○道路維持管理の在り方の検討

本町では、平成 21 年度以降「ゆすはら道路網維持管理チーム」を

立ち上げ、道路の維持管理に取り組んでいるところですが、作業人員の不足により以前から比較しますと十分な対応が困難な状況となっています。

道路の維持管理につきましては、町民の皆様のご協力により継続されている「一斉清掃」に始まり、本町の道路（維持管理）に対する意識が非常に高く、今後も引き続き取り組んでいく必要があると考えています。

○道路敷地内の未登記地の登記促進

道路敷地内の未登記地の解消に向け以前から取り組みを行っていますが、未だ多くの未登記地が存在しています。多くの時間を要すると思いますが、毎年度着実にその解消に向けて取り組んでいきます。

○豊かで持続可能な森林づくり

「森林の文化創造推進課」を設置以来、「森林の価値の再構築」を掲げ、持続可能な森林づくりの

実現に向けて取り組んできました。

近年、国内においても SDGs の達成に向けての取り組みが加速しており、県内外の企業から「森林の整備に貢献したい」とのお話をいただきました。現在、8 企業の皆様と協働の

森づくり事業に取り組んでいます。引き続き、こうした環境先進企業の皆様の様々なご支援・ご協力をいただきとともに、協働の森づくり事業の推進を図るとともに、豊かで持続可能な森林づくりに向け取り組んでいきます。

○梼原森林づくり大学構想

「梼原森林づくり大学構想」については、後別当地区においての「令和の森林づくり事業」をはじめとして、昨年夏には、矢崎総業株式会社、四国部品株式会社の職員により、約 1 ヶ月間、植林トライアルとして再造林事業の実証を行っていただきました。令和 5 年度においては、期間を 1 年間に延長して植林トライアルを実施いただく計画となっています。

地域の林業関係者や地域おこし協力隊に加え、大学等の研究機関、町外の先進事業者や環境先進企業

の皆様とともに森林づくりについて考え、学び、実践する「梼原森林づくり大学構想」の推進により、「技術者の育成」「人財・技術の継

が必要不可欠となってしまいます。そのため町産材を活用した木の原を担う世代にも木と触れ合える環境づくりを進めていきます。

また、今後、持続可能な森林づくりを実現していくためには、本町の森林の文化の伝承と森林を身近に感じることのできる取り組み

太郎川公園再生の名のとおり、公園機能の再生・充実は大変重要であり、公園利用者の増加はもちろん、周辺施設とともに町内全域への波及効果の観点から公園の再生は町内観光産業の鍵を握っています。

承」を図り、先人から託された本町の豊かな森林を、人づくりと交流の拠点として、次世代に託せるように取り組んでいきます。

【魅力ある生業の創出と地域を支える産業が発展した社会】 産業

○太郎川公園の再整備

本町の目指す観光産業の核となる「太郎川公園再生」の基本構想が策定され、今後、その構想とともに、施設配置、管理運営、収支等詳細な基本計画の策定、基本設計、実施設計と進めていきます。



森林フェスティバル

太郎川公園再生の名のとおり、公園機能の再生・充実は大変重要であり、公園利用者の増加はもちろん、周辺施設とともに町内全域への波及効果の観点から公園の再生は町内観光産業の鍵を握っています。

承」を図り、先人から託された本町の豊かな森林を、人づくりと交流の拠点として、次世代に託せるように取り組んでいきます。

本格運用を開始しています。

また、アクトティビティ施設についても、現在、基本設計を実施しています。公園全体として多様な利用者を想定しながら、魅力が高まりつづける公園へと再生・整備しています。

そのひとつ、道の駅機能につきましては、多くの町民の方から必要という声をいただいており、産業振興課・道の駅準備室では、経営の收支計画の検討、管理運営体制などの仕組みづくり、さらには市場へ出荷される方々の課題の把握・支援等々、新たな「道の駅ゆ

すはら」に向けた準備を行っており、これまで、近隣自治体の道の駅の調査や雲の上の市場などの直販所に野菜や食品を出品されている方に対する聞き取り調査を実施しました。その後も折にふれアンケートを実施するなど、継続して課題やニーズの把握に努めています。この調査により生産者の皆様園を整備、きつつき学習館を改修し、4月からは、それらの施設が本格運用を開始しています。

また、アクトティビティ施設についても、現在、基本設計を実施しています。公園全体として多様な利用者を想定しながら、魅力が高まりつづける公園へと再生・整備しています。

魅力ある産直は、魅力ある道の駅の大前提であり、来訪者の皆様が大きく期待する要素でもあります。直販所を取り巻く状況は、高齢化や担い手不在の影響により今後ますます厳しくなることが予想されます。そうした中でも、新たに出荷をしていただいたり、出荷

を再開していただいたりする方もでてきています。さらには集出荷実証を継続してほしいといった声もいただいています。一方で、直販所の経営上の課題や売れ残り・食品ロスに対する指摘も多くあります。これらの課題についても、関係者と共に有を図りながら令和5年度の取り組みにしっかりと生かしていきます。



整備された太郎川公園の湿生植物園

○ 農業の振興

農業の振興に向けては、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化

する「地域計画」の作成が必要となっています。高齢化が進む農家が 10 年後どのように農地活用するのか土地所有者と対話をしながら、その利活用方法を地域とともに考えていきます。これらの検討を進めつつ、活用される農地の維持・管理のためにも多様な担い手の育成・確保にも取り組んでいきます。

また、活用されている農地につ

いては、基盤整備事業、せまちや用排水施設の改修などにより、農業生産の支援を進めながら、農業所得安定のため、他業種との複合経営の推進や秋冬収穫のユズやイモ類への新規取り組みによる周年農業の確立、遊休農地の利活用となる醸造用ぶどう栽培の面積拡大による農地の再利用の推進、これら地域食材を利用した商品化である農業・農村の 6 次産業化と地域

食材の魅力を町内に発信する食育・地産地消の取り組みも推進していくります。

その他にも、関係機関と連携しながら農福連携の可能性や循環型資源の活用による環境にやさしい農業の研究も行っています。

畜産業では、カルスト高原牧場の受入強化と一般社団法人津野山畜産公社を核としてカルスト牛の増頭・ブランド化を目指していくとともに、4 月に創業される新食肉センターと連携して県内外への販売を行っていきます。

そうした地域の農業振興には、高知県農業協同組合との連携は欠かすことができません。ともに地域の農業振興を推進していくよう強く働きかけ、多面的な取り組みを一体的に推進していきます。

○ 生業づくり

意欲のある事業者や創業・起業

希望者、就業希望者の新たなチャ

レンジへの支援、また関係団体(商工會、商工振興協同組合、観光協

会等)とも連携して支援を行っていきます。

事業者の安定性、継続性を高め

ていくためには、経営安定のための支援を行っていくことが必要であり、特に小規模な事業者に対しでは、よりきめ細やかな支援が求められます。

まちの魅力形成については、魅力ある生業の創出と産業が発展した社会の形成が必要不可欠であり、町外から訪れる方々にとつて魅力的であることに加え、町民にとつても魅力的なものでなければなりません。

梼原町の産業の基盤づくりと新たなチャレンジができる環境づくりを進め、魅力あるまちを形成していくよう、今後の新規起業を目指す方々のために制度を継続し、国・県の動向も注視しながら相談や支援を実施していきます。

【助け合い支え合いながら暮らす社会】くらし

○ 集落活動センターの自立に向けて

助け合い支え合いの仕組みとし

て、各区の集落活動センターが開所して数年が経過し、それぞれのセンタードで自立に向けた取り組みが進められています。その取り組みについて

みについては、表に現れて目に見えることだけでなく、取り組みの経過には、常に悩み、考え、



キジ肉加工施設整備（集落活動センター四万川）

努力され続けている区長をはじめ関係する皆様のおかげだと思っています。

今後も変化し続ける社会情勢のなかで、新たな課題も生まれてくることが予想され、常に悩み続けていたことがあります。だからこそ、集落活動

センターが自立し持続していくために、挑戦し続けることが大事であり、挑戦し続ける姿勢を引き継ぐ人材を含めた体制が重要であると思っていますので、そのための支援をしっかりと行っていきたいと考えています。

○各区、各部落の維持について協議

人口減少や高齢化がもたらす影響は、担い手不足ということもありますが、もつと大きなコミュニティ機能（積み重ねられてきた地域文化の維持）の低下、分散された孤立者が多くなる孤立化につながり、共同利用、共同需要を満たしていく力が弱くなり、集落機能そのものの低

下につながることが予想されます。各区、各部落の維持について、真剣に考えていかなければならない時期であり、皆さんとともに協議を重ねていきたいと考えています。

○地域防災意識の向上

災害を免れることはできませんが、被害を最小限におさえることはできるはずです。そのためには地域防災意識の向上を図っていきます。関わる人が多いほど、より多くの安全を創ることにつながります。

そこで、危機管理アドバイザーが機会をとらえ、地域に出向いて防災に関する話をしながら、地域とともに共通の理解のうえで、地域、自主防災組織と協働して取り組んでいきます。

また、災害時に情報等がつながらない、少ないといった不安解消に向けて整備を進めておりましたアマチュア無線におきましては、アマチュア無線クラブを設立し広域避難所への無線機の設置を行いました。

免許取得者の方が使用できる状態となりました。今後におきましても、アマチュア無線免許の取得を支援し、いざという時への体制を整えていきます。

【世界の人々とつながり 支持され選ばれる社会】つなぐ

世界中の人々とつながることができる時代だからこそ、多様な人が「共感」できる町づくりを進め、梼原町を開いて（発信して）いくことが重要だと思っています。

そのことによって多様な価値観に触れ、認め合うことで世界中の人々との関係を築き「世界の中の YUSUHARA」という意識の醸成もしていかなければなりません。

多様な価値観を認め合うなかにおいては、これまでの価値観を修正することも必要になってくるかもしれません。新たな価値観を手に入れ、これまでの先人たちが積み重ねてこられた実績に基づく価



坪野田地域防災学習会の様子

樋原町の組織機構及び職員配置表

R5.4.1 現在





梼原病院組織機構及び職員配置表

R5.4.1 現在



教育委員会等組織機構及び職員配置表

R5.4.1 現在

教育長 矢野 準也	生涯学習課	学校教育係 主監 兼 係長 山下 三千恵 中越 香菜 研修指導員 森田 彩予
	生涯学習係	生涯学習 スポーツ 芸術・文化の振興等 係長 大利 有美 森山 恵
	梼原こども園	園長 石川 真帆 川上 真希・中岡 公子・掛橋 幸・中越 愛・二神 優・中越 大輔 中越 早紀・森山 成美・泉 理恵・久米 秀人・川上 星詩留 市川 美桜・森野 栄・中越 愛・笛木 陽香(育休)
	一貫教育支援センター	所長 森本民之助 副所長:山本 さち(兼) 幼児教育アドバイザー:西村 玉子(委託) 社会教育スーパーバイザー:横川 恒雄(委託) 中高連携地域魅力化コーディネーター:梶原 大輔(委託) 研修指導員:森田 彩予(兼) 支援員:吉村 るみ子
	町立図書館	館長 中越 佐由美(兼) 司書 木稻 沙央里・中山 梨菜・片岡 麻理 係長 見目 佳寿子
	共同調理場	所長 中越 佐由美(兼) (業務は梼原町商工振興協同組合に委託) 副所長 山下 三千恵(兼)
	梼の木寮	(調理業務は梼原町商工振興協同組合委託)
	梼原学園	
	選挙管理委員会	事務局 局長 中越健三(兼) 下村 千佳(兼)・立道 直美(兼)・大川 明日香(兼)・山本 智也(兼)
	監査委員会	事務局 局長 市大 美奈(兼)
	農業委員会	事務局 局長 大川 真一郎(兼) 川村 幸司(兼)

退職者・転任者等

令和5年3月31日付けで、下記の方が退職・転任されました。

退職者

- 池田 幹彦 (梼原病院 院長)
- 石田 由深 (看護師)
- 上田 加恵 (総務課)
- 大崎 和江 (保健福祉課)
- 竹本 未里 (保健福祉課)
- 松下 聖太 (まちづくり推進課)

転任者

- 徳橋 理沙 (四万十町へ)
- 宗円 幸子 (四万十町へ)
- 二宮はるか (馬路村へ)
- 藤木 俊行 (林野庁 愛媛森林管理所 宇和島森林事務所へ)
- 来米 涼介 (林野庁 四国森林管理局出向)

令和5年度 椿原消防団 椿原町女性消防隊入団式

4月2日（日）、ゆすはら・夢・未来館2階大ホールで、「令和5年度椿原消防団・椿原町女性消防隊入団式」が吉田町長をはじめ、市川町議会議長、下元総務教育厚生委員長を迎えて行われました。

新入団員は入団式を前に、津野山分署署員から消防団員としての基本的な礼式訓練の指導を受けた後、機敏な動作で式に臨みました。本年度は、団幹部4名の異動があり、新入団員に先立ち、令交付を受け、決意新たに申告を行いました。続いて、新たに入団した8名に辞令が交付され、入団した8名に辞令が交付されました。

森田団長より、「昨年は6件の火災と1件の搜索が発生した。消防団員としての責務と災害に対する心構え、日々訓練を行い全員が一致団結し災害や火災などから地域を守れるよう日々備えることが大切」との訓示の後、吉田町長から日夜地域の安全確保のため献身的に尽力していることに対する感謝等の祝辞、市川町議会議長より、「安心安全な災害のない町づくり」の担い手としての期待と



椿原消防団・椿原町女性消防隊入団式のようす

激励の言葉をいただきました。
令和5年度異動団幹部（4名）

第1分団副分団長	西添	中岡	紳二
第2分団副分団長	上田	和博	岳大
第3分団副分団長	森山	久藏	大二
本部団員	前田	大村	太一郎
第1分団団員	西森	松本	悟志
第1分団団員	中平	長谷部	隆雄
第2分団団員	佐藤	黎	力
第3分団団員	秋澤	克哉	一平
4分団団員	高幡	津野	音
	津野	山分署	雄

椿原消防団・椿原町女性消防隊入団式のようす

2月2日（日）、椿原町議会議長より、「安心安全な災害のない町づくり」の担い手としての期待と

森田団長より、「昨年は6件の火災と1件の搜索が発生した。消防団員としての責務と災害に対する心構え、日々訓練を行い全員が一致団結し災害や火災などを守れるよう日々備えることが大切」との訓示の後、吉田町長から日夜地域の安全確保のため献身的に尽力していることに対する感謝等の祝辞、市川町議会議長より、「安心安全な災害のない町づくり」の担い手としての期待と

第2分団2部（下組）に小型動力ポンプ付積載車配備

令和4年度事業に於いて、第2分団2部の小型動力ポンプ付積載車両が更新されました。更新前の車両と小型動力ポンプは、平成8年に購入され26年経過していたもので、強く更新が望まれていました。

新型の車両は2022年式（寒冷地仕様）トヨタハイエース車で、乗車定員6名、四輪駆動、ディーゼルターボ2750ccエンジン、パワーステアリング、エアコン付となっています。

従来であれば、ダットサンタイプが主流でしたが、ディーゼル車による排出ガス規制により、車両総重量の関係で従来の普通免許では運転することができず、現状では、中型免許が必要となっています。そのため、若い団員でも運転できる条件に満たしていない車両ベースとなっています。

今後は、こういった車両が主流となり、活動においても、資材の落下防止等を防ぎ、有効かつ迅速に躍躍できるものと大いに期待できます。



配備された小型動力ポンプ付積載車

走行性能、積載量、利便性等格段と向上した車両となつております。伸縮可変式LEDサイドライトやLED式周辺作業灯を設置を設けており、低騒音・超低排煙と環境にも配慮しています。また、高出力により旧型の約3分の1の時間での真空性能（水を吸い上げる時間）が格段に向上がります。

小型動力ポンプはトーハツ社製でB-2級・46kw以上（62馬力エンジン）搭載、ツイン真空ポンプ式オイルレスバキュームポンプでオイル及び冷却水循環装置を設けており、低騒音・超低エンジン、パワーステアリング、エアコン付となっています。

従来の普通免許では運転することができず、現状では、中型免許が必要となっています。そのため、若い団員でも運転できる条件に満たしていない車両ベースとなっています。

椿原町健康増進センター 改修記念大会開催について

3月18日（土）、大越にある体育館「椿原町健康増進センター」で、改修を記念した大会が行われました。

17日には椿原町内の小中高生のバスケットボールクラブが合同練習を行いました。18日には、中村中学校、中村高校、伊野中学校の3校を招待し、交流試合を行いました。

子どもたちは、新しい床とバスクケットゴールで、お互いに全力でプレーし、他校との交流を深めています。

今後も、大会等で活用いただけますので、利用の際は、左記問合せ先までご連絡ください。

椿原町教育委員会事務局

生涯学習課 生涯学習係

☎ 65-1350



「きつつき学習館」 リニューアルオープンについて

令和 4 年度
に改修工事を行いました。



「きつつき学習館」がリニューアルされました。
ゆすはら

キャンプ場の

受付のほか、1Fにはキャンプ用品などを販売するショップが、2Fにはスマーティやスイーツ・フライドポテトやビール・おつまみなどを楽しむことのできるカフェが同時にオープンいたします。

4月22日リニューアルオープンとなりますが、是非皆様足をお運びください。

産業振興課商工観光係

☎ 65-1350



手本を見ながら、真剣に作品を作していました。さらに、茂住先生と一緒に筆を持つて貰い、アドバイスをいただきながら作品を作り上げていただきました。

茂住先生、そして参加者の皆様ありがとうございました。

書道を楽しむ大変貴重な機会となりました。

椿原町芸術祭
実行委員会



特別書道会の様子

「隈研吾の小さなミュージアム」 再移転について

雲の上の上のホテル・レストラン解体工事に伴って雲の上のギヤラリー内から初代役場庁舎（まるうど館）に移設されていた「隈研吾の小さなミュージアム」について、4月4日（火）に雲の上のギヤラリー内に再移設を行いました。「隈研吾の小さなミュージアム」は、

第9回椿原町芸術祭事業 「令和を揮毫した書道家 茂住青邨さんを囲んで」開催

3月21日（火）、第9回椿原町芸術祭の芸術文化イベントとして、「令和を揮毫した書道家茂住青邨さんを囲んで」を開催しました。

茂住青邨さんは、内閣府で辞令

専門官として奉職され、現在は書道家として活躍されています。

前半には、「令和」揮毫の裏側、書の楽しみ方」と題し講演いたしました。

新元号発表時の秘話や辞令専門官としてのお仕事について、ユーモアも交えながら、詳しくお話ししていただきました。

後半では、特別書道会を開催しました。参加者は、茂住先生のお



特別書道会後の記念撮影

木育インストラクター 養成講座の開催



木を見て・触れて・香りを感じて



これは何の木？



沈まないように積めるかな？

3月11日（土）、図書館多目的室において木育インストラクター養成講座を開催し、9名の方が参加しました。この養成講座は、木を子育てや暮らしの中に取り入れる意義を学び、木で遊ぶ面白さ、木を使う心地よさを体感し、木の良さのより良い伝え方を考えるものです。講師に学校法人自由学園の遠藤智史氏を迎え、木育に取り組む目的を学び、木の積木を用いた木船遊びの実習を通して、木育の進め方と伝え方を参加者各々が考えました。

午後の実習では、木の積木をお題に沿って積み上げる遊びや、水を張ったタライにお題に合う木船を浮かべる「水の積木あそび」を行いました。船の下に軽い積木を添えて浮力を加えるなど、木の特性を感じながら楽しい時間を共有しました。講習最後は、梼原町の木育プログラムづくりに向けて参加者全員で意見を出し合い、参加者からは「梼原の森林をより身近に感じられる活動を増やすべき」との意見が出されました。

森林文化創造推進課

令和5年
5/21
(日)

雲の上のサミット in 太郎川公園

『梼原町の山の価値、再発見シンポジウム』開催

～もう一度、一緒に森林にはいろう～

本町は、森林と水の文化構想をはじめとし、森林の価値創造に向けて取り組むとともに、脱炭素先行地域として、持続可能で豊かな森林づくりによるまちづくりに取り組んでいます。

森林と人を結び都市との交流を理念とし、30年前に本町の東の玄関口として開園した太郎川公園は、令和5年4月にリニューアルオープンを迎えました。また、高知県ゆかりの牧野富太郎博士がドラマ化されるなど、改めて、植物をはじめとする自然環境への関心が高まるものと期待されています。

そこでこの度、自然とともに生きる自然体の生き方と、梼原の魅力、次世代を担う地域の林業技術者及び移住者との対談を通じて、森林とともに生きること、森林づくりに関する仕事の魅力を再発見し、町内外の皆様に発信するシンポジウムを開催します。太郎川公園の豊かな緑の中で、ファッションやアウトドア、ミュージックシーンまでさまざまなカルチャーの第一線で活躍中のデザイナージェリー鶴飼氏、人とその背景にある「場所」に関心を持ち、さまざまな国や街の自然、文化、人々のライフスタイルを、一味違った視点から紹介することで、旅を豊かにするストーリーを伝えているライフスタイル誌「PAPERSKY」の創刊者ルーカスB.B氏、深大寺マウンテンワークスの尾崎光輝氏に語り合っていただきます。皆様の御参加をお待ちしております。

※太郎川公園森林フェスティバルも同時開催いたします。（9時～15時）

シンポジウムの プログラム

- ①講演 「(牧野富太郎博士から学ぶ) 森林・植物利用の可能性」 HARDWOOD株式会社
- ②基調講演 「外から見た梼原」 三者対談(ジェリー鶴飼氏、ルーカス B.B氏、尾崎光輝氏)
- ③パネルディスカッション ジェリー鶴飼氏&ルーカス B.B氏&尾崎光輝氏を囲んで地元林業技術者、地域おこし協力隊が参加

主催 桜原町・自治総合センター
後援 総務省

【問合せ先】
森林の文化創造推進課 ☎65-0811

架空請求（詐欺）、消費者被害に あわないために！

若者や高齢者を狙った悪質商法や架空請求は、日々新たに巧妙な手口が登場しており、限りがありません。令和 3 年度、高知県消費生活センターや市町村窓口に寄せられた消費生活相談は約 5 千件でした。

被害の予防や拡大防止のため、架空請求の手口や消費者被害等について紹介します。

① 身に覚えのない「架空請求」

架空請求（詐欺）とは、実際に利用していないのに「サービスを利用した」等と代金を請求し、お金を使い取る等の詐欺のことです。これらは何らかの名簿を入手した悪質業者が、その名簿に基づき無作為に根拠のないメールやハガキを送つたものと思われます。

裁判」「訴訟」「差押え」等の法律用語を使い、文章で不安を煽るために思い、ハガキ等に書かれてある部分が利用したかも知れないと思いまうケースもあります。

◎ 対処方法

身に覚えのない場合は、ハガキ等に記載されている番号には絶対

お荷物のお届けにあがりましたが不在の為持ち帰りました。ご確認ください。<http://obrmumghca/duckains.org>



◎ 対処方法

図のようなメッセージが届いても、無視してください。また添付されているサインには安易にアクセスしないようにし

に連絡しないでください。連絡をしてしまったと、個人の情報を知られ、それをもとに更に金銭を要求される可能性があります。支払い義務があるかどうか不安な時は、警察や役場、消費生活センター等の相談窓口へ相談しましょう。

② なりすましメール

実在する宅配便業者の不在通知等を装い、携帯電話の SMS（ショートメール）に、図のようにメッセージを送りつけ、偽サイトへ誘導する詐欺の手口です。メッセージ中のアドレスをクリックすると、宅配便とは無関係なサイトへ誘導され、個人情報を入力させられたり、コンピューターウィルス等に感染する恐れがあります。



◎ 対処方法

広告の隅に小さな文字で説明が書いてある悪質なケースもあるため、通信販売を利用するときは、販売サイトや商品の説明をよく読んで確認してから購入することが大切です。また解約や返品の条件についてもきちんと確認しておくようにしましょう。

④ 電力会社等を名乗る不審な電話・訪問

大手の電力会社等を名乗り、契約内容の聞き出しや、「料金が安くなるので設備点検をさせてほしい」等との電話や、「点検に来た」と突然訪ねて来る事例もあります。

- 警察：須崎警察署
- 横原駐在所：088-824-0999
- 高知県立消費生活センター：088-824-0999
- 横原町保健福祉課

て下さい。もし誤ってメールやメセージを開けてしまった場合でも、クレジットカード情報や ID、パスワード等の個人情報は絶対に入力しないようにしましょう。

③ 通信販売に関するトラブル

通信販売は便利ですがトラブルも多くあります。通信販売に関する相談の多くは、契約内容をよく確認せず、トラブルとなるケースです。「1回のつもりで申し込んだのに定期購入だつた」「契約解除の連絡をしたがすぐに解約ができない」等、定期購入に関するトラブルも多くあります。

◎ 対処方法

広告の隅に小さな文字で説明が書いてある悪質なケースもあるため、通信販売を利用するときは、販売サイトや商品の説明をよく読んで確認してから購入することが大切です。また解約や返品の条件についてもきちんと確認しておくようにしましょう。

被害に遭わないために

電力会社等から、電話で契約内容を尋ねられたり、料金が安くなるという文言で設備点検を煽ることはありません。不要な勧誘はきつぱり断るようにして、不安な場合は電力会社等に確認するようにしましょう。また突然訪ねてきて消費者の不安を煽り高額な契約をさせられる「点検商法」にも注意しましょう。

◎ 対処方法

被害に遭わないためには、被害を防ぐためには、身近にいる家族や地域のみなさんの見守りが大切です。普段から話をすると、詐欺や消費者被害に遭わないよう注意しましょう。また地域で「差出人がよく分からぬ郵便物が頻繁に届いている」「詐欺ではないか」等の話を聞いた際や不安な場合は、相談窓口へご連絡ください。



PTA会長をいたしました。吉田町長は「壁にぶつかつた時、希望を持つて、他人のせいにせず、自分にできる事にしつかり取り組んでください。きっと状況が改善しま

3月11日(土)、第42回桜原中学卒業式が行われました。昭和56年に町内の中学校が統合し、桜原中学校開校式が行われたその時と同じ体育館です。コロナ禍の影響で3年間、規模を縮小して行わってきた卒業式ですが、今年度は、来賓35名の参加をいたしました。生徒はマスクをはずしました。生徒一人ひとりの真剣な表情を見る事ができる卒業式となりました。卒業生23名が証書を授与された後、校長、教育長、町長、議会議長、

桙原中卒業式



式が終了し、卒業生が会場から退場する。と、待ち構えていた在籍生たちが花束を降らす。祝福の言葉を吹雪をまし

3月22日（水）、椿原小学校卒業式が椿原学園多目的ホールで行われました。2年前に二分の一成人式をした児童たちが立派に成長し、保護者が見守る中、全員が協力して誓い

「す」と卒業生にエールを送つていな
だきました。送辞は川上咲実さんが、
答辭は武正秦君が行いました。

柄原小卒業式



4月7日（金）、令和5年度椿原こども園、入園・進級式がありました。

今年度は新しく4名のお友達の入園があり、乳児組29名・幼児組62名の合計91名でスタートします。入園・進級式では、自分の名前が呼ばれると大きな声で「はい！」と返事をしたり、お家のの方と一緒に手をあげたりする子ども達でした。

今年度も元気いっぱいの樋原こども園をよろしくお願いします。



りす組(1歳児)



どう組(5歳児)

雲の上の図書館だより

YUSUHARA COMMUNITY LIBRARY JOURNAL ☎ 0889-65-1900

日頃の取り組みが評価されました

令和5年度子供の読書活動優秀実践図書館



日頃より多くの園児・児童・生徒の皆さんに利用していただいている当館が、この度文部科学大臣に表彰されました。手に取りやすく興味を引く書棚作りはもちろん、ボードゲームや音楽、ワークショップなど様々な切り口で子ども達の新たな可能性の扉をノックする試みや、定期的に保育士と育児相談が出来る会場の設置、地域の高齢者と子どもの交流を図るイベントなど、数々の実践事例を評価されました。これからも皆様のご利用をお待ちしています。

いつも心に思いでを

『アルバムのチカラ』

著:藤本智士 写真:浅田政志

被災した人々が瓦礫の山から探そうとしていたのは、通帳ではなくアルバムだった。東日本大震災の津波で流されてしまった泥だらけの写真とアルバムを洗浄し、持ち主に返却する人々の活動の取材記録。

ご紹介した本が貸出中の際は、ご予約を承ります。お気軽に図書館カウンターまでお問い合わせください。

5月の休館日

2、9、16、23、26、30

MONOGO展を開催しました

エコで便利な、しまんと新聞ばっぐ



香川県観音寺市を中心に活動する、しまんと新聞ばっぐインストラクター団体「MONOGO(モノゴ)」の作品展を開催しました。「ものご」とは、香川県西部地方の言葉で入れ物や容器のこと。なんでも新聞紙で包んでしまおうという、しまんと新聞ばっぐのコンセプトを表した名前です。新聞紙とでんぶんのりだけで出来た環境に優しい「ものご」の数々が所狭しと館内に展示され、来館者の皆さんはそれぞれ世界に1つしかないバッグを鑑賞していました。

本を持って出かけよう

『いきもの六法』

編:山と溪谷社いきもの部

日本の自然とそこに生きる生き物たちは、破壊と絶滅の危機にさらされている。それらの自然や生き物を守るために、様々な法律がある。自然の生き物たちに関連する法律をわかりやすくまとめた本。



その生き物、採っても大丈夫?

折りし皮 ひとりで開く 柏餅/山口誓子

かしわもちを食べ終わった後にかしわもちについていた葉を折って置いたのだが、硬い葉はひとりでに開いていく。

第16回春季全日本小学生男子ソフトボール大会に出場

柏原ファイターズは、雲の上スポーツクラブの一つで、現在13名の小学生が日々の練習に励んでいます。今回の高知県予選にて優勝とならないよう好成績を収め、3月25日から27日静岡県牧之原市で行われた全国大会に出場しました。初日から2日目に掛けて天候に恵まれず、雨天順延となつてしまいましたが、3日目から天候が回復し、早朝に見た富士山の莊厳な山姿に勝利を誓い試合に挑みました。



柏原ファイターズでは、部員を募集しています。毎日午後5時から柏原学園グラウンドで練習しています。お気軽にご参加ください。柏原ファイターズJSC

5月の行事予定

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------|
| 9日(火) 柏原学園9年生修学旅行(12日まで) | 14日(日) 第35回町長杯争奪ゲートボール大会 |
| 柏原学園8年生職業体験(12日まで) | 17日(水) 行政相談 |
| 11日(木) 春の交通安全運動(20日まで) | 20日(土) 柏原町交通安全の日 |
| 13日(土) 大越粗大ゴミ受入日・環境整備デイ
柏原高校PTA総会 | 高知県高等学校体育大会(22日まで) |
| | 24日(水) 柏原学園6年生修学旅行(26日まで) |

5月の保健福祉課行事予定

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1日(月) 松原サテライト | 17日(水) あゆみの会 |
| 2日(火) 小児健診 | 18日(木) 四万川宅老 |
| 8日(月) げらげら家族会 | 19日(金) 東区いきいき |
| 11日(木) 越知面デイ、東区宅老、四万川宅老 | 25日(木) 四万川いきいき |
| 12日(金) 初瀬いきいき | |



毎週月曜日 育児サークル(図書館内カンガルーのおなか)午前10時~

※子育て中に限らず、どなたでも参加できます。お待ちしています。

毎週水曜日 予防接種(四種混合、麻疹・風疹【MR】、BCG、日本脳炎、子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌ワクチン、水ぼうそう、B型肝炎、二種混合)

月曜日～金曜日 子育て世代包括支援センター(支援センター1階)

※妊娠や子育てに関する相談がありましたら、気軽においでください。

(電話でも構いません。☎65-1170までお願いします。)

ゆすっこ相談センター相談日 9日(火)、16日(火)、23日(火)、30日(火)

川畑真理子心理カウンセラーの相談日(月2日) 15日(月)、16日(火)



※相談希望の方は、子育て世代包括支援センター☎65-1170までお願いします。

※行事予定は新型コロナウィルス感染症拡大予防のため、今後変更となる可能性がありますのでご了承ください。

国3月29日には、吉田町長へ全大会を終えて主将の西村倫汰朗君は「初戦突破を目指してきましたが、勝つことができませんでした。この悔しさをバネに、次回の全国大会に出場できるよう頑張ります」と意気込みを語りました。

力及ばず1対2にて初戦敗退となりました。

杉の子俳句会

文芸



春本番WBC勝ちに行く	春風を割つて大谷ホームラン	春の風。ポイントで買ふサンドイッチ	開け放ち部屋いっぱいに春の風	今日こそは踊り呆けて春や春	図書館の木椅子の大小目借時	如月や遺影の友は男前	庭先のくぼみの指の日向ぼこ	木の芽和へ少し幸福食進む	苗木植う百年先を語りつつ	歯ブラシを銜えて立てば山笑ふ	花蕾日々ふくらみを待つ弥生
明神伊佐子	影浦 鉄心	川田 早苗	西村 幸枝	内野 純子	掛橋 初子	氏原 陽子	西村 蓉子	西村 蓉子	久岡 智子	下元 廣幸	野中 鳩雄
西村由利子	西森 誠子	中平 忠雄	中越 郁子	渡辺 瑞枝	吉田 敬子	中越 昌一	高らかに檀家読み上げ春彼岸	春日影母校の庭に人絶えて	定期異動待つたあの日は遠くなり	廣瀬 卓雄	西村由利子

袖子の木俳句会

窓開けて吹く『早春賦』風光る
水音や水温むゆえの流れあり

いざ行かん我が師の恩を胸に秘め
中三の胸のリボンに風光る

この宵はひとしお花菜匂いけり
春の宵はひとしお花菜匂いけり

高らかに檀家読み上げ春彼岸
中越 郁子

春日影母校の庭に人絶えて
吉田 敬子

定期異動待つたあの日は遠くなり
渡辺 瑞枝

廣瀬 卓雄

短歌

元気出せ頑張れよと云い聞かせても
云うこと聞かぬ体のあちこち

松本 君恵（鬼北町）

狂歌

八十路坂命拾つて越してはみたが
後は寒くて暗い細道

（トボトボと）

河野 哲夫

歯ブラシを銜えて立てば山笑ふ
花蕾日々ふくらみを待つ弥生

未来の町は寒降狂階

どうしたの富裕層向けホテル建て
未来の町は寒降狂階

寄付のお礼

このほど、次の方々からご寄付をいただきました。町ではその趣旨を十分に尊重し、有効に活用させていただきます。紙面をもってお礼とご報告申します。

【ふるさとづくり寄付金】
中宇祢 裕也様（埼玉県）
他匿名希望の方 10名

●おめでた

住所	出生者氏名	性別	出生年月日	保護者
後別当	野村 ゆうま 侑時	男	R5.2.27	野村 健太
上本村	白石 こはる 心晴	女	R5.3.1	白石 翔子
大蔵谷	那須 しょうご 尚悟	男	R5.3.9	那須 一大

●おくやみ

住所	死亡者名	性別	死亡年月日	年齢	世帯主
下西の川	川上 久仁江	女	R5.3.8	87	本人

※個人情報につき掲載の了解をいただいた方を掲載しています



なまくら 4 月号 No.778



ゆすはら湿生園



田野々古木林遊歩道



久保谷セラピード

NHK 連続テレビ小説「らんまん」に 関係する観光地整備について

高知県出身の植物学者・牧野富太郎をモデルとしたNHK連続テレビ小説「らんまん」が4月3日より放送開始されていることに合わせて、梼原町内4か所で植物を楽しむことのできる観光地整備を実施しましたので紹介します。

太郎川公園内に、牧野富太郎博士ゆかりの植物や、四国カルストで観察できる植物を湿生園として整備しました。園内では、ヤマアジサイやミズチドリ、山菜エリアなど様々な植物を楽しんでいただけます。

お越しの際は、きつつき学習

館にて植物案内パンフレットをお渡ししておりますので是非お立ち寄りください。

① ゆすはら湿生園

後別当地区、林道白谷姥ヶ滝線を進んだ先にある約33mの高さの段瀑「姥ヶ滝」周辺を遊歩道として整備を行いました。遊歩道周辺にはスギゴケ類、ゼニゴケ類、ツノゴケ類が多く生育しており、幻想的な雰囲気を漂わせています。（表紙写真）

③ 田野々古木林遊歩道

田野々地区、国道440号線沿いに広がる古木林内に、遊歩道や展望デッキの整備を行いま

た。「久保谷セラピード」内には、牧野博士ゆかりのトサシモツケをはじめ、キシツツジ、ユキワリイチゲといった希少植物の群生が見られる秘密の場所もあるようです。

産業振興課 商工観光係

した。遊歩道内には、絶滅危惧種であるクマガイソウ群生地があるほか、様々な樹木が生育しています。

④ 久保谷セラピード

久保谷地区にある久保谷セラピード内に、男女別の水洗トイレ施設を整備しました。「久保谷セラピード」内の中間地点にあたる「もみじ橋」付近に設置されており、観光客がより訪れやすくなりました。

「久保谷セラピード」内には、牧野博士ゆかりのトサシモツケをはじめ、キシツツジ、ユキワリイチゲといった希少植物の群生が見られる秘密の場所もあります。

何より私が嬉しく思ったのは、子ども達が植物に興味や関心を持つてくれたということです。例えば、牧野植物園が公募した「植物図コンクール」に全国から応募があり、精緻で質感のある植物図が描かれていました。また子ども高知新聞には、校区にあるバイカオウレンの自生地を見学し、詳しく観察したこと、感動したことが記事になっていました。

梼原町にも東川の「百草園」があり、太郎川公園内にも「ゆすはら湿生園」という梼原ならではの植物が観察できる場所もできました。子ども達にはこの機会にぜひ自然の中の植物に触れ、植物に興味関心をもつてほしいと思います。五感で感じ取ったものはいつまでも心に残っています。

編集後記

連続テレビ小説「らんまん」が始まりました。牧

野富太郎博士がモデルのドラマです。博士の出身地は佐川町です。3月の始めにその佐川町に行く機会があり、牧野公園や佐川町内を散策することができました。

佐川町は今、「らんまん」と牧野博士で大盛り上がりおり、至る所に博士やドラマに関係のある物が溢れています。

牧野公園では、同じ上着を着た人たちが、訪れた人たちを案内していました。公園内には、博士が見つけた植物がたくさんあり、博士が愛した花、バイカオウレンの清楚な花が、もう終わりかけではありませんでしたが咲いており、楽しめました。

驚いたことにこの公園内の植物の世話は、「はなもりクラブ」の方たちが年中行っているとのことでした。

これらの盛り上がりは佐川町だけに留まらず、東京の小石川植物園でミニ牧野展が開かれたり、伊野商高生が牧野カードを作製し、観光客に配布することも新聞に掲載されました。

牧野公園では、同じ上着を着た人たちが、訪れた人たちを案内していました。公園内には、博士が見つけた植物がたくさんあり、博士が愛した花、バイカオウレンの清楚な花が、もう終わりかけではありませんでしたが咲いており、楽しめました。

驚いたことにこの公園内の植物の世話は、「はなもりクラブ」の方たちが年中行っているとのことでした。

これらの盛り上がりは佐川町だけに留まらず、東京の小石川植物園でミニ牧野展が開かれたり、伊野商高生が牧野カードを作製し、観光客に配布することも新聞に掲載されました。

何より私が嬉しく思ったのは、子ども達が植物に興味や関心を持つてくれたということです。例えば、牧野植物園が公募した「植物図コンクール」に全国から応募があり、精緻で質感のある植物図が描かれていました。また子ども高知新聞には、校区にあるバイカオウレンの自生地を見学し、詳しく観察したこと、感動したことが記事になっていました。

梼原町にも東川の「百草園」があり、太郎川公園内にも「ゆすはら湿生園」という梼原ならではの植物が観察できる場所もできました。子ども達にはこの機会にぜひ自然の中の植物に触れ、植物に興味

関心をもつてほしいと思います。五感で感じ取ったものはいつまでも心に残っています。

何より私が嬉しく思ったのは、子ども達が植物に興味や関心を持つてくれたということです。例えば、牧野植物園が公募した「植物図コンクール」に全国から応募があり、精緻で質感のある植物図が描かれていました。また子ども高知新聞には、校区にあるバイカオウレンの自生地を見学し、詳しく観察したこと、感動したことが記事になっていました。

梼原町にも東川の「百草園」があり、太郎川

訂正とお詫び

3月号で掲載誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

15ページの寄付の御礼の記事で「中山博行様（中町）」と掲載しておりましたが、正しくは、「中山博行様（東町）」でした。訂正をお詫び申上げます。

（広報編集委員会）